

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年7月7日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.130]

JR革マル浸透問題へマスコミ・政界から厳しい指摘が続く

5月11日に民主党政権がJR総連・東労組への革マル派の浸透を指摘する答弁書を閣議決定した一方で、民主党が第22回参議院選挙においてJR総連・東労組の幹部役員である組織内候補を公認したことについて、6月22日朝刊の産経新聞(「No.126」参照)に続き、6月24日発売『週刊新潮』(7月1日号)の連載コラム「日本ルネッサンス」で評論家の櫻井よしこ氏がこの問題を取り上げた。櫻井氏は、以下の通り、革マル派のJR総連・東労組への浸透と、参議院選挙で「JR東労組の実力者」松崎明元会長に近い人物を民主党の候補として公認していることの危険性について警鐘を鳴らした。

今年の参院選の労組出身の候補者は、07年より4名多い11名である。その中にJR東労組の実力者、松崎明元会長の側近といわれる田城郁氏も名を連ねている。松崎氏はJR東労組の委員長や会長を歴任したが、JR東労組と「革マル派」(日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派)には警戒すべき関係があると、今年5月11日、政府が答弁している。これは自民党衆議院議員の佐藤勉氏の質問への答弁で、鳩山首相名でなされた。答弁書はまず、革マル派を「極左暴力集団」と断じている。彼らは、「将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図って」と明記し、「JR総連及び東日本旅客鉄道労働組合内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」とまで断じているのである。そのようなJR東労組の松崎氏に近い人物を、菅首相も枝野幸男幹事長も、参院選挙での民主党の候補として、公認しているのだ。有権者として、このことは明確に記憶しておかなければならない。

今こそJR革マル浸透問題の解決への絶好機だ！

また、「たちあがれ日本」共同代表の与謝野馨衆議院議員は、政見放送や街頭演説会で、櫻井氏と同様に、JRへの革マル派浸透問題の危険性について厳しく訴えている。政見放送では「いちばん私はひどいと思うのは、あの過激派の革マルの代表が民主党の比例代表に入っているというのは、これはもう許し難いことだ」と述べたほか、6月13日に都内・渋谷駅頭で行われた街頭演説会でも以下の通り訴えた。

皆さん、今年の5月に鳩山内閣が閣議決定した文書があるんです。革マルっていう、皆さん、左翼過激派の組織をご存じだと思うんです。革マルと中核は戦って殺し合ったりしている。その革マルについて政府が何を言っているか、政府の答弁書っていうのがある。暴力的革命集団である、人殺し、法律違反は数々だ。いろいろな会社や大事なところに潜り込んで活動を続けている。要注意だ。鳩山内閣が閣議決定しているんです。ところが民主党は今度は何をしているか。民主党は革マルそのものを立候補させてます。JR東、ここにも走っていますけど、JR東労組は革マルの牙城なんです。その革マルの親分の松崎さんの一の子分が民主党の全国比例で出てくるんです。過激派の代表まで民主党の候補に入ってくるというのは異常なことなんです。

このように参議院選挙における民主党のJR総連組織内候補者の公認についての注目度が高まり、政界やマスコミなどから厳しい指摘が続いている。タブー視されてきたJRへの革マル派の浸透が社会問題化しているこの機会に、問題解決の絶好機である。選挙後の国会ではこの問題に関して追及が進むと考えられるが、民主党・民主党政権には、わが国の治安上の重要課題との認識の下に、徹底説明するよう強く求めたい。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>